

岩手県立大学 基盤教育アセスメント・ポリシー

| 区分 | 教育目標 | 科目区分 | 学修目標 | |
|---------------|--|------------|---|---|
| 大学で学ぶ力 を作る | 大学で 4 年可案の学び、また 実社会で活用できるスキルの 獲得と資質・能力・身体の育 成を目指す | 入門科目 | (各学部基礎教養入門学修目標) | |
| | | 英語 | (英語科目学修目標) | |
| | | 情報処理 | (情報リテラシー学修目標) | |
| | | 保健体育 | (体育、健康科学学修目標) | |
| 生きる世界を 知る | それぞれの専門領域の知識・ 技術を活用する場としての「世 界」を知ることを目指す | 地域教養 | 地域理解 | ①様々な地域課題の実際を知り、理解できる ②地域課題解決のために考え方、実践的方法が身につく ③地域課題を取り囲む社会の仕組みを理解できる |
| | | | 地域学習 | ①フィールドにおいて、地域課題を見出すことができる ②地域でのフィールドワークにおいて地域住民と適切なコミュニケーションがとれる ③地域課題を理解するためのリソースを活用することができる(方法を理解できる) |
| | | 国際教養 | 外国語 | 外国語学修を通じて多様なコミュニケーション能力を身につけ、異文化をより深く理解できる。 |
| | | | グローバル理解 | ①異文化理解を通じてグローバルな視点を持つ ②多文化共生社会の現状を理解し問題の発見と解決する能力を養う ③現代社会の国際的課題を理解し対応を考察する |
| | | データサイエンス教養 | ①数理・データサイエンス・AI を大学の学び・研究、将来の仕事等で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付ける ②データから意味を抽出し、現場に フィードバックする能力、AI を活用し課題解決につなげる基礎能力を修得する | |
| 学問を知る・ 使う | それぞれの専門領域を学問全 体(知の体系)の中に位置 づけ、課題解決のための他の 学問領域の「知」を活用でき ることを目指す | 基盤教養 | ①それぞれの学問の人間社会の中で意味と意義を理解できる ②それぞれの学問の特徴を述べることができる ③それぞれの学問が、人間の歴史において(過去・現在・未来)果たしてきた役割、果たすことができる役割を考察することができる | |
| | | 課題別教養 | ①扱われた課題の社会的な意味と意義を理解できる ②扱われた課題を思考するための学術的基盤を理解できる ③扱われた課題を検討するための分析・解釈するための手法、また思考方法が理解できる | |

【基盤教育アセスメント・ポリシーの内容】《 》内対応 DP

基盤教育アセスメントの実施計画

| | 項目 | 方法 | 時期 | 対応 DP | 結果の活用・公開方法 | 実施者 |
|---------------|---|---|---------------|---------------------------------------|--------------------------------------|--------|
| 1 年次 | 思考力テスト | GPS-Academic | 4 月 | | 入学時思考力の把握し年度末に報告 (FD および基盤教育委員会) | 高推センター |
| | 英語プレイスメントテスト | TOEIC bridge | 4 月 | | 入学時の英語力把握 年度末に報告 (FD および基盤教育委員会) | 科目担当者 |
| | (副専攻) 地域創造教育プログラム・ルーブリック | 地域創造教育プログラム専攻の学生の学修進 度のアセスメントのためのルーブリック | 学年末 | | 副専攻の学修成果の把握 年度末報告 (FD および基盤教育委員会) | 科目担当者 |
| | (副専攻) 国際教養教育プログラム・ルーブリック | 国際教養教育プログラム専攻の学生の学修進 度のアセスメントのためのルーブリック | 学年末 | | | 科目担当者 |
| | 1 年次履修全基盤科目履修状況の把握 | <ul style="list-style-type: none"> ● 科目別履修者数 ● 各科目学部別履修者数 ● 学年別履修科目 (基盤科目の学年別履修推移) ● 履修取り消し | 次年度集計 | | | |
| | 基盤教育授業アンケート集計 | 学修目標の到達の主観的評価 | 学年末 | | | |
| | 1 年生履修全基盤科目成績評価検討 | <ul style="list-style-type: none"> ● 科目別 GP 分布、比較 (高 GP 科目、低 GP 科目) ● 科目別 GP 学部比較 | 年度末～ 次年度集計 | | | |
| 基盤教育全般へのアンケート | 基盤教育へのアンケート (新規作成) <ul style="list-style-type: none"> ● 選択の理由 (何を基準に科目を選択しているか) ● 満足度 ● 他に学びたい内容の教養科目 (記述) ● 履修の抽選制度について (公平感等) ● 成績評価について (他の科目との公平性) ● 熱心に取り組んだか ● あなたにとっての基盤教育の位置づけ (教養を身につけたい、自分の関心のあるものを学びたい、専門以外を学びたい、専門に関連あるものを学びたい等) | 次年度 (2 年次春実施) | | 履修状況および学修状況を把握し、次年度基盤教育運営委員会及び学部へ報告する | 高推センター | |

| | 項目 | 方法 | 時期 | 対応 DP | 結果の活用・公開方法 | 実施者 |
|------|--------------------------|--|---------------|-------|---------------------------------------|--------|
| 2 年次 | (副専攻) 地域創造教育プログラム・ルーブリック | 地域創造教育プログラム専攻の学生の学修進度のアセスメントのためのルーブリック | 学年末 | | 副専攻の学修成果の把握 | 科目担当者 |
| | (副専攻) 国際教養教育プログラム・ルーブリック | 国際教養教育プログラム専攻の学生の学修進度のアセスメントのためのルーブリック | 学年末 | | 副専攻の学修成果の把握 | 科目担当者 |
| | 英語 TOEIC | 2 年間の英語教育の成果検討 | 2 年後期 | | 1 年次プレイスメントテストとの比較検討し、本学の英語教育の成果を評価する | 科目担当者 |
| | 2 年生履修全基盤科目履修状況の把握 | 基盤教育の履修状況を把握 | 次年度集計 | | 履修状況および学修状況を把握し、次年度基盤教育運営委員会及び学部へ報告する | 高推センター |
| | 2 年生履修全基盤科目成績評価検討 | 各科目の GP の分布比較 学部間検討 | 次年度集計 | | | |
| | 授業アンケート集計 | 学修目標の到達の主観的評価 | | | | |
| | 基盤教育全般へのアンケート | 1 年次同様 | 次年度 (3 年次春実施) | | | |
| 3 年次 | 思考力テスト | | 4 月 | | 2 年間の思考力の評価 | 高推センター |
| | (副専攻) 地域創造教育プログラム・ルーブリック | 地域創造教育プログラム専攻の学生の学修進度のアセスメントのためのルーブリック | 学年末 | | 副専攻の学修成果の把握 | 科目担当者 |
| | (副専攻) 国際教養教育プログラム・ルーブリック | 国際教養教育プログラム専攻の学生の学修進度のアセスメントのためのルーブリック | 学年末 | | 副専攻の学修成果の把握 | 科目担当者 |
| | 3 年生履修全基盤科目履修状況の把握 | 基盤教育の履修状況を把握 | 次年度 | | 次年度基盤教育アセスメント結果にまとめ全学的に報告 | 高推センター |
| | 3 年生履修全基盤科目成績評価検討 | 各科目の GP の分布比較 学部間検討 | 次年度 | | | |
| | 基盤教育全般へのアンケート | | 次年度 (4 年次春実施) | | | |
| 4 年次 | (副専攻) 地域創造教育プログラム・ルーブリック | 地域創造教育プログラム専攻の学生の学修進度のアセスメントのためのルーブリック | 学年末 | | 副専攻の学修成果の把握 | 科目担当者 |
| | (副専攻) 国際教養教育プログラム・ルーブリック | 国際教養教育プログラム専攻の学生の学修進度のアセスメントのためのルーブリック | 学年末 | | 副専攻の学修成果の把握 | 科目担当者 |
| | 4 年生履修全基盤科目成績評価検討 | 4 年次生の 4 年間の基盤科目の成績動向 | 3 月 | | 履修状況および学修状況を把握し、次年度基盤教育運営委員会及び学部へ報告する | 高推センター |
| | 4 年生履修全基盤科目履修状況の把握 | 4 年次学生の 4 年間の基盤科目の履修状況 | 3 月 | | | |